

出席委員

- (会長) 小池健一様…南長野医療センター篠ノ井総合病院 名誉院長
(委員) 大池剛様…農業
(委員) 柄澤深様…株式会社松本山雅 取締役営業本部長 (代理)
(委員) 小松裕様…中信興業株式会社 代表取締役
(委員) 嵯峨宏一様…松本市 副市長
(委員) 菅谷千恵様…農業 JA 松本ハイランド未来塾卒
(委員) 高橋亜希様…塩尻市企画政策部 秘書広報課広報シティプロモーション係 (代理)
(委員) 藤澤高穂様…株式会社五千尺 代表取締役
(委員) 横山和佳枝様…松本ゾンタクラブ 会長

※上條まゆみ様、堀内由理様 2名欠席

佐藤浩市代表取締役会長

須崎 修代表取締役社長

事務局 取締役制作部長 浅輪英典

1、佐藤会長 挨拶

本日は年末お忙しい中お越しいただきありがとうございます。実は皆様にお願ひしたいことがございます。50周年迎えますにあたり、来年6月にイベントを開催するつもりであります。ご案内状をお送りするのでぜひお越しくください。テレビ松本は40年間自主放送を行なっています。ケーブルテレビの自主放送はこのままでいいのか。地域密着の放送を続けてきたが、インターネット等の登場で今のやり方でいいものか、皆様のご意見を聞かせていただきたい。その審議の結果で、放送番組改編を行っていきたいと考えております。今回だけでなく皆様の忌憚のないご意見をいただきたい。また、テレビ松本は50周年を機に、大きく衣替えをしていく方針です。これまでTV、NET、電話の3点セットでやってきましたが今、停滞期がきていると感じております。特に若者のテレビ離れなどの問題が出てきています。次の時代にあった番組を制作するため、自主放送の大幅改編をしたいと考えております。3月選挙等がありますが番組改編についてもう1度話合う場をお作りしたと考えております。3点目、医療の分野にも進出していきたくと思っています。50周年の記念イベントは来年6月2日に開催します。6月2日は日曜日であります。ご案内状をお送りするのでぜひお越しくください。皆様には忌憚のないご意見をいただきたい。よろしくお願ひ致します。

2、小池健一審議会長 ご挨拶

本日はよろしくお願いいたします。テレビ松本さんにとっては念願だった槍ヶ岳の伝送に成功し、このように新しいことに取り組む企業の姿は地域に住む住民としても大変嬉しく思います。テレビ松本が地域密着企業であり続けるためには、番組改編等も考えながら新しいことも取り入れていくべきではと私自身感じております。本審議会でその点を踏まえて話し合いができればと思います。

4、令和5年下半期（6月～11月）放送番組ご報告

（事務局 浅輪部長）

主なものだけピックアップさせていただきました。2番から5番まで高校野球です。抽選会・一回戦から4回戦まで生中継させていただきました。来年は松本が主会場になるにあたり、開会式から決勝まで中継する予定です。7番この日から槍ヶ岳LIVEが本格スタートしました。会長が東京のNHK放送センターで記者会見をして発表しました。

夏祭り、塩尻玄蕃祭りや松本ぼんぼん関しては、時間短縮縮小がありながらの開催でした。13番14番は塩尻市・松本市の総合防災訓練を中継しました。テレビ松本が22年間行なっているものです。

17番県ヶ丘高校創立100周年記念として、芸術館やホテルブエナビスタの模様を配信や収録をさせていただきました。また、今回は初めての試みとして槍ヶ岳山頂と会場をつなぎ、会場や山頂から校歌を歌うこと企画し、反響の大きいものとなりました。

19番は、今年も開かれました泣き相撲大会です。

地域の赤ちゃんが会場に集まり、元気な泣き声を響かせていました。また、コロナ禍ではズームで開催されたクイズ税金百科。今年は一堂に会してできました。中学生の姿を見て税の意義について考えるような番組です。

続いて、23番は松本市小学校卒業音楽会です。残念ながら2校出場することができませんでしたが、私の方で教頭先生の方にご連絡させていただき、後日、学校で行われた演奏の様子を収録しました。25番、11月19日に行われました長野県縦断駅伝大会です。

70人ほどの県内ケーブル各局に協力していただき、テレビ松本が制作主体局になって生中継しました。26番、テレビ松本地域感謝フェアです。今回は本社を開放してみようということで主体を変えてやりました。新人3人が生中継で会場の様子をレポートするなど新しい取り組みをしました。お越しになった方からも中継見たよと声をかけていただき、予想よりも多い1500人ほどが来社しました。以上、今年の主な取り組みについてご紹介いたしました。

（小池会長）

新しく取り組んだことはありますか。

（浅輪部長）

25番の県縦断駅伝大会と須崎社長指揮のもとで行われた県ヶ丘高校100周年です。

新しい取り組みの中で県ヶ丘高校においては、須崎社長に指揮をとっていただき成功することができました。駅伝では、途切れることなく中継をつながなければならない状況で、宮川が準備を一生懸命やりました。松本マラソンの次の週でもあり、駅伝を通じての地域の活性化も考えていければと思っております。取り組みとしてはこの2点が新しくしたものだと思えます。

(小池会長)

懇親会や昼食会などに活用できるのではないかと思います。もう1つ、25番の駅伝大会はテレビ松本が主でやったという認識でよろしいですか。

(浅輪部長)

はい。以前は諏訪のLCVが放送主体局としてやっていました。こういうのはもち周りでやるべきであるという佐藤会長からのご意見をいただき、今年、主体局として取り組みました。合同チームという形で中継班を作って8班くらいできました。モバイル回線を使ってキャリアを束ねて2Kの映像と音声をテレビ松本に集めてという形で制作しました。LCVさんと同じことをやるのではなく新しいことをと考える、先導車にレポーターを初めて入れました。来年も新しいことにチャレンジしていきたいと思っています。

5、課題番組 一括審議

(浅輪部長)

お手元の資料をご覧くださいので、VTRをご覧ください。

【小学生が英語でガイド～短歌のふるさと塩尻市広丘～】

【浅間温泉の夜に賑わいを～信大生がBarを開店～】

この2つの特集を出ささせていただきました。普段のニュースに加えて、もう少し掘り下げたいことには焦点を当て、特集を制作しています。この2つの特集はNHKのイブニング信州でも放送されました。

柄澤委員：1つご質問なんですが。こういった学校のニュースはどのように見つけていますか？

(浅輪部長) 市政担当の崎浜さんのように、市役所の方やリリースをいただいた方から情報をいただくこともあります。また子どもたちの親御さんからニュースソースをいただくこともあります。

(崎浜) プレスリリースを短歌館からいただきました。初めて英語でガイドする取り組みを広めたいという考えのもと特集として作りました。

柄澤委員：深いところまで思いを巡らせていただいて、いいところに目をつけていると率直に感じました。特に子供たちがやっていることに焦点を当てるには地域密着テレビとしてこれからも続けて行ってほしいです。大学生のバーについては見た雰囲気、音声と口の動きが合っていなかったと思いました。内容は、若者らしい雰囲気が伝わってきて応援したくなりました。

小松委員：広丘については地元小学校の取り組みで、英語がすごく普及していることが番組を通して知ることができました。ただ1点、英語のテロップの補足で日本語のテロップを入れてみてはと思いました。2本目の浅間温泉の番組は、若い方と地域が協力する姿はケーブルテレビとしてもすごく良い題材だったと思います。ローカルな話で話題になるのがテレビの力です。どちらも素晴らしい題材・番組でした。

嵯峨委員：広丘については、題材を掘り出した意図に拍手を送りたいと思いました。私の年代では、タブレット使用やALTの先生がアジアの方であることに馴染みがなく、番組で教育現場の変化に気づきました。子どもたちが、短歌の里を英語にしていく過程をもう少し見られればいいなと感じました。浅間のバーについては、できれば続編として信大生がお店にするまでや、かつての栄えていた浅間温泉の映像を見てみたいと思いました。

菅谷委員：広丘の特集は、子どもたちが真剣に取り組んでいる様子や当日までの準備段階の様子が伝わってきてとても良かったと思います。バーについては、調べればいいことだとは思いますが、営業時間や場所などがテレビを見ているだけでわかるような記載があればいいなと感じました。

高橋委員：広丘については、プレスリリースなどで知っていましたが、ここまで子供たちが上手に案内をしていることは映像を見て初めて知りました。題材として取り上げていただきありがとうございます。浅間温泉の特集は、おしゃれな店が増えている浅間温泉には夜も楽しめるお店があると知ることができましたし、大学生が報告・連絡を取り合いながらがんばっている姿が伝わってきて良かったです。

藤澤委員：小学生がカメラを向けられて堂々としている姿に驚きました。5分という短い尺で伝えるのは難しいと思いますが、ALTとはなどの補足などがあればと感じました。

2本目の浅間温泉については、立ち上げた佐々木さんの顔・表情が良かったと思います。学生や利用者のインタビューがバランスよくできていたと思います。強いていうと、観光客や地元客を分けてテロップを作るといいかもしれません。

横山委員：インバウンドが増えてきて松本市内でも海外の方をよく見かけます。その中でこの番組を制作したのはいいタイミングだと思います。子どもを通して地元の子どもが地元にあるものを大切にしている姿は番組を見ていて感動しました。

2本目のバーですが、場所や営業時間の記載の指摘が先ほどありましたが、私には伝わりました。佐々木くんが卒業して以降も続いてほしいと思える番組だったと思います。観光業に携わる者として非常に嬉しいです。

(小池会長)

委員の皆様が非常にいいとおっしゃっていたので良かったと思います。大学生の行動力に驚くとともに、番組のように行動する大学生の姿は新鮮でした。ぜひ続編を制作していただきたいです。短歌の里に関してはALTの先生がアジア系になっていることは気づきでした。

(根津) ここで大池様のご意見を代読させていただきます。

大池委員:小学生が英語でガイド。ナレーションについて、少しもっていると感じました。また、テロップは統一してほしいと思います。浅間温泉のものは、バックミュージックのタイミングがよく製作者のセンスを感じました。どちらも10回以上見てここ直した方が気付くほどよくできていたと思います。

(浅輪部長)

観ていて少しも疑問に思われぬような番組を作ることが私たちの仕事では重要です。観ている側に立った番組を制作していくよう改めて心がけます。普段からアンテナを高く張って、ニュースだけでなく特集として作るという判断をするなどしていきたい。

6、番組改編について

・番組改編の考え方について…(浅輪部長)

大幅に番組改編を50周年に合わせてするにあたり、市場調査をした。テレビ松本がほしいサンプルは子育て世代でしたが、50・60代が中心。時間帯では正午〜で土日を中心によく観られているという結果。ニュースとスポーツ大会、中継。ニュース、行政などがよく見られています。観たい番組として運動系、子どもに特化した番組。行政系はJチャンネルだけでなく地上波で見たいという意見がありました。

マーケット調査を参考にさせていただいて、私自身コミュチャンに力を入れている全国3箇所視察させていただきました。30人規模でどこもやっていました。

コミュチャンの原点回帰と書かせていただきました。サービスや事業展開は最先端へ、我々コミュチャンは原点へという考えでやらせていただきたいと思います。

1度ゼロに振ってまず、背骨と軸を考えたいと思います。テレビの力はあるということを感じてもらうため、会長が言っていた総合生活産業になるために、加入者が主役の番組作りをしていく。具体的な取り組みとしては、アンケートをもとにしてこれからやって行くべきことを決めていく。行政などに対して提案型のコミュチャンを目指す。

町会単位の番組の放送では、営業と連携して行なっていきたい。未就学児から高校生までの話題を意識したい。人に焦点を宛てた番組を定期的に放送していきたい。週末には、特集など力点をおく報道をしていきたい。また、週末イベントの中継や長尺ものを徹底して放送したい。近隣市町村の番組放送については、隣で何をやっているのか知りたいという意見がありました。選挙報道や災害報道については、私たちの番組を通して投票率を上げられるように企画を進めていきたい。NHK長野放送局や信毎と連携し災害報道を引き続き行なっていきたい。私としては51期のスタートに合わせて、番組改編を行いたい。

・委員の皆様からのご意見ご要望

横山委員：テレビというものはアンケートを見ても、ある程度の年齢の方は目から入ってくる音から聞けるという点でまだ続くと思いますし、地域密着のケーブルテレビでは必要ではないかなと感じます。私は月曜日かあ朝9時まではよく見ている、他県の番組も見ている。台風シーズンなどLIVE中継は情報として参考にしている。加入者が見ていただけるようになればと思います

藤澤委員：経営の転換期であると思います。テレビ松本の番組事業の収益化に力を入れて行くべき。誰に対して、どの層に対してというターゲットをしっかりと狙いをつけるのも重要。テレビ離れは避けて通れないので、信大の学生にテレビの所有率の確認やユーチューブへ力を入れるなど、どの層に対してアプローチをするのか明確化すると良いと思います。若年層向けにどんな対策をしていくか、コミュニチヤンの立場をどうしていくか。テレビを持たない若者が多くいるのでその点をもう一度考えてほしい。

高橋委員：私自身テレビ離れをしていると感じています。観ない時間がすごく増えたと思っています。動画を簡単に「さっ」と見られるものが増えてきている。塩尻市としてもショート動画にシフトチェンジして視聴回数が増えました。テレビ松本での番組をショート動画として流すのが良いのではないのでしょうか。「こんなことがありましたよ」ではなく「来週こんなことがありますよ」という宣伝のような番組があっても良いのではないのでしょうか。若い世代を取り込む工夫をしていければいいと思います。

菅谷委員：高校野球は宣伝をよく目にした印象がありますが、その他いつやっているのかわからないことが多いと思いました。どのように番組等の宣伝をしていくのが課題だと思います。地域だったら回覧板などがあるように、進化した形で宣伝していくことを考えていくのが良いと思います。

嵯峨委員：どんな番組が観たいかということでは塩尻東筑まで魅力あると思いますがなかなか知られていない。山とか。暮らすたびとか見てみたい。上高地に行ったこともない人が多いのでそこも伝えられたらいいなと思います。定点カメラをもっと観られたら楽しいのかなと思います。暮らしに密着した番組を作っていただきたいと思います。現在番組表が見つらいなと思いました。ラインなどで友達登録したら毎日番組表を送ってくるなどがあったらいいなと思います。

地区単位で連携していくのはいいなと思いました。加入者数を増やすという観点ではテレビに映るなどというのは加入要因として強いと思う。企業提案型の事業とは、CMの他にも何かあるのではないかと思うのでこれから大きな余地があるのではと思います。

既に電話など加入をきっかけに繋がりが増えているものがあると思います。

更に深めるために双方向性を持たせることはこれからのテーマになると思います。

アンケートを見て思ったのは、定点カメラを観るのが自分自身好きなので、欲を言えば松本駅前・上高地・塩尻駅前などがあればいいなと思った。この間息子がテレビを買ってケーブルテレビにも加入して楽しんでいるので、若者にとって新聞より近くなる要素があるように思えます。

アンケート自体が30代40代の意見が取りきれていないと思う。再度機会をもたれるのであればその世代をもっと調べたらいいと思います。今回でた方向性はそれしかないのではと思う。やりたいこととできることに乖離が出てしまうこともあると思うので、必要な体制と技術を準備して行くことも番組改編には必要ではないかなと思います。スポーツや子供たちの番組はこれからも注目が大きいと思います。

・テレビ松本からの言えることは何かありますか？

須崎社長：例えば若者がテレビ離れしていること（オンデマンドが観られればいいなど）もある。コミchを通していい番組を作っていたらいいと思っているが民放も同じ。月々口座振替などでお金を賜っているのという点に関しては安定して作っていかねばと思っています。テレビ松本に加入をしているのは62000弱ほど。

地域の半分はテレビ松本に契約しているということです。高齢者の方などは1日テレビ松本を観ている人が実は多い。商業放送なので、CMなどもしっかり放送していかないといけないと思っています。弊社はCMも民放より安く放送できる場所もありますので。これからは企業などに槍ヶ岳の素材や技術を使っただいていくこともできます。

東京のJ:COMでは契約率は70%。それだけコンテンツに魅力があるということ。これから内容をよく見て番組を作っていないといけないと思います。社員自身の個性を活かしての番組作りとかもできると思う。松本市の裏町の舞台による活性化などもバックアップしていったら、そんな地域と密着していける番組などができていったらと思います。

小池会長：アンケートを基にということですが、回答した人を見てということになるので、30代の意見はなかったのでもそこをどうしていくか考えることが必要だと思います。

番組をもっとアピールし、Youtubeなどの活用もこれから避けて通れないと考えてうまく活用していくこと、そしてオンデマンドなどをこれからどうしていくのかも検討していければいいのではないのでしょうか。

浅輪部長：テレビそのものの発信の仕方も含めて考えていきたいと思っています。

本日は貴重なご意見を賜りありがとうございます。